

■■メールマガジン「静岡県防災」第6号■■

「火砕流の恐怖 雲仙普賢岳の教訓！」

1991年（平成3年）6月3日に「雲仙普賢岳（長崎県）」で大規模な火砕流が発生しました。

この災害で、死者41人、行方不明者3人、建物被害2,511棟の被害がありました。

当時、戦後最大の火山災害であり、時速100km以上の速さで襲来する「火砕流」という現象を初めて多くの国民が知ることになりました。

火砕流は、富士山の噴火でも発生する可能性があります。静岡県民として、火砕流について知っておきましょう。

○火砕流とは

火砕流とは、噴火によって放出された高熱の岩石や破片が地表に沿って流れる現象です。火山灰と空気の混ざった高熱の爆風は「火災サージ」と呼ばれます。

火砕流の原因は、成長中の溶岩ドームが不安定になり、崩れるときに破砕して斜面を一方方向に流れ落ちることなどで発生します。

その速度は時速100km以上、温度は数百度に達します。火砕流が発生してから逃げることはできません。事前の避難が必要です。

○富士山ハザードマップと避難対応

富士山の場合、火山岩塊、火山礫及び火山灰を含む噴煙が上空に吹き上げてから崩落したり、直接火口から噴きこぼれるように流れ落ちて、火砕流が発生する可能性があります。

令和3年3月に改定した富士山ハザードマップによりますと、火砕流は谷筋を流れて遠くまで達する可能性があります。市街地まで到達することはないでしょう。

山腹にお住まいの方や登山者・観光客等は、噴火警報や「火山の状況に関する解説情報（臨時）」などの火山防災情報、市町が発令する避難情報を基に、噴火前に避難することが重要です。

夏場の登山・観光シーズンに噴火が起こらないことを祈るばかりです。

（参考文献）

雲仙岳災害記念館HP

<https://www.udmh.or.jp/eruption/>

気象庁HP 防災メモ【火砕流】

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/sapporo/02m05/100_02m05memo.pdf